

民主党県連

初の陳情を聞く会

業界団体 国政とのねじれ苦慮

民主党県連（代表・大島章宏衆院議員）は3日、水戸市内で県内の業界団体から陳情を聞く会を開いた。党本部に陳情を精査して伝える「政策推進委員会」が先月末に発足されてから、実際に陳情を受け付けたのは初めて。参加団体の多くは従来自民党の支持団体で、政権交代後も県連の職域支部機能を維持したまま。来年の参院選、県議選を控え、県政野党の民主党県連が国とのパイプ役をどう果たせるのか、陳情する側も聞く側も手探りの駆け引きが続いた。

【山崎理絵】

意見聴取は、地方からの陳情を精査するた
め2日間の日程で行わ
れ、初日は県連副代表
の藤田幸久参院議員ら
国会議員4人と県議6
人が20団体から聴取し
た。4日までに県歯科

医師連盟▽県医師会▽
県商工政治連盟▽県
税理士政治連盟▽県
農協組合中央会など
計40団体が訪れる見
通し。

8月の衆院選で自民
党支援の先頭に立った
県歯科医師連盟の比企
利枝子理事長は陳情
後、日本歯科医師連盟

の会長が政策要望を民主
党に伝えると明言し
たことに触れ、「県で
も民主党とは具体的な
話し合いが少なかつた
ので、今後いろいろ出
していききたい」と歩み
寄りを強調した。しか
し、記者団から政党支
持について問われると
「県議会には自民党が多
数でねじれているの
で、苦慮している」と
心境を吐露した。

一方、会員の多数が
現在も自民党員という
県造園建設業協会幹部
は、民主党が掲げる二
酸化炭素25%削減に賛
同する方針を示し「地

球環境を守るお手伝い
ができれば、と申し上
げた」と話し、政策協
調をテコに急接近を図
る姿勢を示した。

藤田参院議員は、党
の政策やマニフェスト
が受け入れられている
と感じたとして「（自
民党に）10年も言っ
て政治献金もしたが、報
われなかったと訴える
団体もあり、気の毒に
なった」と手応えを強
調した。陳情の精査方
法については「具体的
な基準はまだないが、
予算や緊急性を考慮し
て速やかに上げたい」
と語った。

団体からの意見を聞き取る藤田参院議員
(右から2人目)ら—水戸市民会館で

